主催　一般社団法人日本鉄鋼連盟

# 第5回 グリーン・スチール・セミナー 開催のご案内

## 社会資本の整備・ライフサイクルについての最近の取組み

## ～鋼材の優れた環境性能について～

1. 開催目的：　日本鉄鋼連盟では、地球温暖化防止、循環型社会の構築、自然との調和などに貢献する鋼構造の優れた環境性能をご理解いただくため、建設に携わる方々を広く対象に毎年、「グリーン・スチール・セミナー」を開催しております。

　第５回を迎えます今回も、「社会資本の整備・ライフサイクルについての最近の取り組み～鋼材の優れた環境性能について～」と題しまして、鉄鋼業界の地球環境保全についての取り組みや、鋼材のリサイクル優位性、またその評価手法のＩＳＯ化等、最新の動向も織り込んで紹介いたします。

　ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

2. 日　　時：平成27年11月19日(木) 13：00～17：15

3. 会　　場：フクラシア東京ステーション 5階 5H会議室（定員150名）[定員になり次第､締め切らせていただきます]
　住所：東京都千代田区大手町2-6-1　⇒　https://www.fukuracia-tokyo.jp/access/

4. 受講対象：ゼネコン、設計会社、施主、商社などの鉄鋼ユーザー、鉄鋼メーカー、研究者など

※ 建築士会ＣＰＤ認定プログラム　（プログラムID：00138541、4単位）　、　土木学会認定ＣＰＤプログラム　（認定番号：JSCE15-0821、4.0単位 ）

5. 受 講 料：無　料

6. 申込方法：鉄連HP（ http://www.jisf.or.jp/ ）から、

・Topics ＞ 第5回グリーン・スチール・セミナー

　または、

・各種ご案内 ＞ 催し物のご案内 ＞ 第5回グリーン・スチール・セミナー

　からお申込みください。　（ http://www.jisf.or.jp/info/event/gss/5-201511.html ）

※参加申込受付時に返信いたします確認メールをプリントアウトの上、当日会場にお持ちください。

7. 申込締切：平成２７年１１月１２日（木）必着（定員になり次第、締め切らせていただきます）

8. 問合せ先：一般社団法人日本鉄鋼連盟　経営政策本部　市場開発グループ
　TEL：(03)3669-4815　　FAX：(03)3667-0245　　E-mail：gss@jisf.or.jp

以上

主催　一般社団法人日本鉄鋼連盟　　*プログラム*

# 第5回 グリーン・スチール・セミナー

**社会資本の整備・ライフサイクルについての最近の取組み**

**～鋼材の優れた環境性能について～**

日時：平成 27 年 11 月 19 日(木)13:00～17:15　　会場：フクラシア東京ステーション 5 階 5H 会議室　　敬称略

| | |
|---|---|
| 13:00～13:05 | **開会挨拶**<br>日本鉄鋼連盟　建設環境研究会　副委員長　　平川　智久 |
| 13:05～13:50 | **-基調講演-　循環型社会の構築に向けた鉄鋼業界の対応と貢献**<br>日本鉄鋼連盟　建設環境研究会　委員長　　北野　新治<br>地球環境問題への対応は産業界にとって今後ますますその重要性を増していく。地球温暖化防止、循環型社会実現に向けて、生産プロセスにおける省資源・省エネルギー化や、鉄鋼製品による温暖化防止への貢献など、鉄鋼業界の取り組みを解説するとともに、循環型社会構築に貢献する建設用鋼材ついて紹介する。 |
| 13:50～14:35 | **素材リサイクルにおける鉄鋼材の優位性**<br>東京大学　工学系研究科　マテリアル工学専攻　特任准教授　　醍醐　市朗<br>鉄鋼材の社会中の蓄積について概説した後に、鉄鋼材が使用済み製品から回収される効率（使用済み回収率）の推計結果を示す。鉄鋼材のリサイクル性の良さは、磁性による他素材との分離の容易さや、電解を用いずに製鋼時に不純物除去が可能なことや、不純物濃度の許容濃度の高さが知られるが、その他にも、使用済み後の回収されるまでの時間バッファ機構も含めた使用済み製品からの回収率の高さも優位性の 1 つであると考えられた。 |
| 14:35～15:20 | **リサイクリング効果を考慮した鉄鋼製品の評価手法と ISO 化の動き**<br>日鉄住金総研株式会社<br>参与　調査研究事業部　環境・エネルギー部長　研究主幹　　岡崎　照夫<br>鋼材が社会で使用された後の再利用による環境負荷効果を含めた鋼材 LCI 算定方法は、世界鉄鋼協会の専門家会合で 2011 年に確立（第三者評価も含めて）をした。現在、世界各国の実績データを収集中である。日本からも最新データを提出中であり、この方法論に基づいて GHG を含む主要環境負荷の評価が、この世界共通の方法で評価され、その結果は、日本データとして計算方法や使い方と合わせて公表を予定している。 |
| 15:20～15:35 | 休憩 |
| 15:35～16:20 | **産業拠点における低炭素型まちづくりのデザインと評価　（鉄鋼産業を中心として）**<br>国立研究開発法人国立環境研究所　社会環境システム研究センター<br>環境都市システム研究室　特別研究員　　大西　悟<br>鉄鋼産業の低炭素街づくりへの貢献が国際的に注目を集めている。国内外の産業共生まちづくりを紹介し、鉄鋼業による温室効果ガスの間接排出削減の定量的評価を報告する。そして、GHG アカウンティングの枠組みに投資家への発信材料として活用できる可能性を示す。事業所内の省エネを極限まで実現した鉄鋼業において、他業種と連携することの意義を、事例を交えて紹介する。 |
| 16:20～17:10 | **-特別講演-　再生可能エネルギー固定価格買取制度の現状と課題**<br>**―　持続性ある再生可能エネルギー導入制度のあるべき方向性　―**<br>総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会新エネルギー小委員会委員<br>（新日鐵住金株式会社　技術総括部　上席主幹）　小野　透<br>固定価格買取制度（ＦＩＴ）が施行されて３年が経過した。ＦＩＴは、再生可能エネルギー導入の加速という点では目覚ましい効果を上げた一方で、国民負担の急拡大をはじめとした様々な副作用も引き起こした。本講演では、これまでに明らかとなった課題や今後想定される懸念事項を解説するとともに、持続性ある再生可能エネルギー導入制度のあるべき方向性について、新エネルギー小委員会等における議論をもとに解説する。 |
| 17:10～17:15 | **閉会挨拶**<br>日本鉄鋼連盟　建設環境研究会　幹事　　河野　謙治 |